

# JAMトピックス

J 第 定	A 1 期	A 7 大	M 回 会
-------------	-------------	-------------	-------------

## 宮本会長・河野書記長を選出

JAMの2016-17年度の運動方針など10本の議案を討議・決定した第17回定期大会が2015年8月27日-28日の両日、静岡県熱海市で開かれた。またこの大会では、執行委員の半数が定年などで改選となり、宮本礼一新会長、河野哲也新書記長をはじめとする新体制を確立した。

冒頭のあいさつに立った真中行雄JAM会長は長らく続いた「デフレからの脱却」「経済の好循環実現」のために2015春闘は従来に増して重要度を増し、特に雇用労働者の七割が中小企業で働いているため、中小の取り組みが例年以上に注目され、中小への波及効果拡大をめざした春闘であった。

妥結金額は全体平均でも、300未満でも前年比300円から400円のプラス。また、賃金制度がありはっきりベースアップと区分できているところでは836単組が要求し、640単組で1,800円のベアを実現した。厳しい中にあっても精一杯交渉した結果である。こうした結果を踏まえ、長らく円安による原材料・エネルギー高という中にあっても、全体平均で昨年を上回ったこと、ベア実現単組の広がり、さらに金額の上乗せなどから、JAMは一定の成果を残した。この流れをさらに2016年、17年と確実に続けることによって経済の好循環が実現する。これから政策実現など組合員との信頼、絆、この原点を忘れずに活動を展開してほしいと述べた。



<組合員との信頼、絆、原点を忘れずに 真中会長>

新役員を代表してあいさつした宮本礼一新会長は、JAMは全国に105の地協を設置している。

地協活動を通じて中小労組の役員からは、JAMに参加する他の組合の好事例や経験などを知ることができ、組合役員の質的向上につながるなど、高い評価を得ている。しかし一方、地協活動に参加していない、単組が固定化している、若手の組合リーダーが育っていない等々、JAMが取り組んでいる活動が単組や組合員に十分伝わらず、産業別労働組合運動が単組の組織力に好影響を及ぼしきれていない。地協活動の活性化が喫緊の課題である。



<藤川しんいち勝利へ 宮本礼一会長>

私たちは政治にかかわらずして暮らしを営むことはできない。ものづくり産業で働く者として、産業や企業、雇用を取り巻く問題に対し関心を深め、自らの問題として考え、ものづくり産業の基盤強化と、そこで働く全ての労働者の将来にわたっての雇用の安定のために2016年7月に施行される第24回参議院議員選挙で、比例区に藤川しんいち候補を擁立して闘うことを決定している。中小企業で働く多くの人たちの労働条件を改善し、サプライチェーン全体の公正取引やディーセントワーク実現のためにも、自らの手で政治を変えていく。と述べた。運動方針などをめぐり9人の代議員から「男女平等参画アクションプラン」「男女共同参画の推進」「東日本大震災における復興・再生の取り組み」「争議支援」「財政健全化」「春闘等の共闘」などの質問や意見が出された。

大会は最後に藤川しんいち当選へ総行動を行う等の大会宣言を採択し終了した。